

平成 29 年度 学校評価実施報告書

学校名 (太秦中学校)

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標 「授業力の向上」と「家庭での自学自習の習慣をつける」	
具体的な取組 ・ <u>授業改善</u> に向けた校内授業研究（11月）のさらなる推進。 ・ 校外の研修会や授業研究会等への参加の積極的推奨と、学んだことを校内で共有する研修の充実。 ・ <u>授業改善</u> に向けた教科会の充実。 ・ 自ら課題を見つけ、自主的に取り組む <u>家庭学習の定着</u> 。 ・ 朝読書のさらなる充実。 ・ 図書館活用の推進。 ・ 学生ボランティアを活用した、土曜学習会のさらなる推進。 ・ <u>授業力向上</u> を目指した「若手・中堅教員実践道場」や「授業力向上チーム」による授業研修のさらなる推進。 ・ <u>学力向上</u> を支える大きな機能の一つである、「生徒指導力」の向上を目指した取組の推進。	
(取組結果を検証する) 各種指標 アンケート「家庭学習が十分出来ているか」 アンケート「授業を通じて学力が着いてきていると思うか」 アンケート「授業はわかりやすいか」 アンケート「家庭学習は大事か」	
各種指標結果（1回目） 家庭学習は大事だと思っているが、十分出来ていない。 授業を通じて学力が着いてきているかについても十分とは言えない。 3年生に関しては全国学力調査のアンケートでも十分できていない。	
自己評価	分析（成果と課題） ・ 家庭学習のために宿題を出している。しかし、宿題はやっても、そのやり方に課題がある。自主的、計画的にやれていないと思われる。 ・ 授業改善にむけた教科会の時間を予定に入れたものの、充実までとはいっていない。教科一人の場合や時間の調整、その意義の共通理解が課題である。ただ、個々で授業改善のための相談等も行われている。組織として行えることが課題である。 ・ 学生ボランティアの確保がむずかしい。今年は途中で2名ほどやめてしまった。 ・ 「若手・中堅実践道場」によるよい研修が行えた。無理なく参加できる予定を計画する必要がある。 ・ 図書館を活用した授業は行われているが、もう少し多くの教科で行う必要がある。 ・ 朝に読書の時間を設けているが、クラスによって終了時間がちがう。
	分析を踏まえた取組の改善 ・ 宿題を出すだけでなく、学習への意義や家庭学習の重要性を生徒に示す必要がある。 ・ 具体的な学習計画の立て方等を教える必要がある。 ・ 各教科に図書館を利用するように促した。 ・ 終了時間を合わせるためにベルを鳴らす予定。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・地域からの学習ボランティアのなり手について声をかけているが、中学校の学習内容が難しいという思いからなかなか手がないが、今後も声をかけていきたい。	
	評価日 10月26日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目） ○「家庭学習が十分出来ている」の度合 17.1%(7月)→20.1%(12月), 「だいたい出来ている」と合わせた度合 77.6%→84.7% ○「授業を通じて学力が着いてきている」の度合 24.5%→27.0 「だいたい着いてきている」と合わせた度合 78.6%→77.1% ○「家庭学習は大事だと思う」の度合 50.6%→42.2% 「だいたいそう思う」と合わせた度合 87.7%→83.2%		
自己評価	分析（成果と課題） ・「家庭学習」「授業による学力」の実現度は微増しており、指導の成果だと思われる。しかし、その度合いは低いので、家庭学習を自主的に意味のあるものにしなければならない。また、授業に関しては、より効果的な授業ができるように工夫する必要がある。 ・「家庭学習が大事」の度合いが減っており、魅力ある家庭学習になっていない可能性があるとの分析、家庭学習のあり方について検討する必要がある。また、小中でや同じ小学校でもクラスによってちがうやり方とのことなので、小中同じ方法で行うなど効果的な家庭学習について考える必要性を感じる。 ・家庭学習を毎日きちんと行うことは、生徒にとって「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を身につける一番身近で効果的な手段と考え、取り組みはまちがっていないと思われるが、改善の余地がある。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・家庭学習において自主的に学習でき、効果が感じられるものにすることが必要であり、研究する必要がある。また、小中で連携し、小学校から中学校へ続く家庭学習のやり方を探す必要がある。 ・授業による学力の向上については、研修会、教科会を持ち、よりよいものにすることが急務である。また、小中で授業研修を行い、学習効果を高める予定である。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・家庭学習は学校だけの問題ではない、むしろ家庭の問題でもある。いい方法があれば協力したい。	
	評価日 3月6日	評価者 学校運営協議会

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標		
自他を大切にし、「公共の精神」に基づく態度の育成		
具体的な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、道徳授業の在り方について研究を進める。 ・道徳の授業を要として、学校教育活動全体を通して道徳教育を実践する。 ・生徒会活動を通じて、<u>生徒たち自身によるより良い集団づくり</u>を実践させる。 ・生徒理解を含め、共感的人間関係を基盤に、個に応じた指導を進める。 「生徒を切り捨てない、切り離さない」 ・よりよい教育相談の在り方について学び、実践する。 ・教育活動全体を通して、<u>人権尊重の精神を育てる</u>。 		
(取組結果を検証する) 各種指標		
アンケート「自分を大切にしていますか」		
アンケート「他人を大切にしていますか」		
アンケート「人の役に立ちたいと思いますか」		
アンケート「学校のルールや社会のルールを守れていますか」		
各種指標結果（1回目）		
道徳授業が自分のためになっているとおおむね回答があった。		
人の役に立つことは自分のためになると多くの生徒保護者が思っているが、実行に関しては不十分である。		
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業を計画的に出来ており、行事等の学校の教育活動等による実践もおおむね出来ている。 ・道徳の授業のさらなる研究とその実践力をつける。（若手道場を利用し研修会が持てた。） ・全国学力調査アンケートのボランティア活動への参加の割合が少ない。これについてはその場を提供することが必要と思われる。また、人の役にたっていることをもっと評価する必要がある。 ・行事前にベテランによる指導の講義や話し合いの場を持つことができ、多くの若手が参加できた。 課題としてはなかなか時間が取れない。	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに振り返りを確実に行之、確実に生徒に評価を返す。 	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の場として、地域行事での協力を学校に打診していきたい。 ・よくやってくれていると評価できる。学力と同様に、心の教育もたいへん重要なので、今後もしっかりやってほしい。 	
	評価日 10月26日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目）		
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳を学ぶことは自分のためになると思えますか。 「思う」44.4%(7月)→42.2%(12月) 「だいたい思う」以上87.4%(7月)→86.1%(12月)		

	<p>・道徳を学んで自分のためになりましたか。</p> <p>「なった」 33.6%→32.5% 「だいたいなった」 以上 83.2%→84.0%</p> <p>・規則正しい生活を送ることは自分のためになると思いますか。</p> <p>「思う」 66.5%→66.9% 「だいたい思う」 以上 96.9%→96.5%</p> <p>・規則正しい生活を送ることは自分のためになりましたか。</p> <p>「なった」 24.0%→24.9% 「だいたいなった」 以上 73.2%→69.2%</p> <p>・学校や社会のルールを守ることは自分のためになると思いますか。</p> <p>「思う」 67.5%→68.7% 「だいたい思う」 以上 95.9%→96.6%</p> <p>・学校や社会のルールを守ることは自分のためになりましたか。</p> <p>「なった」 46.3%→49.3% 「だいたいなった」 以上 95.5%→95.1%</p> <p>・人の役に立つことは自分のためになると思いますか。</p> <p>「思う」 64.2%→64.3% 「だいたい思う」 以上 93.8%→93.7%</p> <p>・人の役に立つことは自分のためになりましたか。</p> <p>「なった」 25.8%→25.5% 「だいたいなった」 以上 82.6%→81.9%</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種指標の全てにおいて『実現度』では、「だいたい～」を含めると度合いは高いが、「～になった」の度合いは低い。自信を持って言い切れる「～になった。」を選ばせたい。 ・自分の行動についてどう評価されているか生徒本人は気づきにくいと思われる。そのために、定期的に結果を振り返り、評価し、生徒に返す必要がある。そのことで、自信を持たせたい。 ・各項目の意義を理解させることも必要である。 	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを必ず行うこと。また、評価も行うこと。自分の行動に対して感謝されたり、認められたい経験を重ねて、自分の判断に自信を持ち、今後望ましい行動できるようにする。 ・それぞれの振り返りを教職員で共有する。 ・上記のことを確実に言い、「自ら律する力」としてのこれらの指標にある項目の度合いのアップを図りたい。 	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事に中学生に参加してもらい、助かる。今後地域を担う中学生にこれからも協力していただきたい。 	
	評価日 3月6日	評価者 学校運営協議会

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標
生涯にわたって自らの健康をコントロールし、改善していく力の育成

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動することの楽しさを味わい、生涯スポーツにつながる体育学習や運動部活動のより一層の充実。 ・<u>食事、運動、休養・睡眠など調和のとれた生活習慣を身につけさせる。</u> ・<u>飲酒、喫煙、薬物の有害性・危険性や医薬品についての正しい知識の習得と行動化。</u> ・心身の健康の保持増進を目指した食教育の推進。 ・交通事故や水難事故、熱中症、転落事故等様々な危険から身を守るための知識や判断力を養う安全教育の充実。 ・地震・台風・大雨・火事等の災害は身近に起こりうるものとして「主体的に行動する態度」を育成する防災教育の推進。 		
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>アンケート「規則正しい生活をおくれていますか」</p> <p>アンケート「飲酒・喫煙・薬物は中学生にとってよくないと思いますか」</p>		
<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を出来ていると答えている割合は多くない。 ・飲酒・喫煙・薬物の危険性についてはよくわかっているようである。 		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活ができない原因にどうしてもスマホやゲーム等の誘惑に負けているようである。 ・いろいろな場面で指導・教育していく必要がある。 ・今後も飲酒や喫煙。薬物の知識を与え、危険性を訴えていく。 	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでと同様の取組を行っていく。 ・身を守るための知識や判断力を養う機会を作っていくことはもちろんよくわかるような工夫をしていく必要がある。 	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>特になし。</p>	
	評価日 10月26日	評価者 学校運営協議会
<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を送ることは自分のためになると思いますか。 「思う」 66.5%→66.9% 「だいたい思う」 以上 96.9%→96.5% ・規則正しい生活を送ることは自分のためになりましたか。 「なった」 24.0%→24.9% 「だいたいなった」 以上 73.2%→69.2% ・飲酒・喫煙・薬物のことを知ることは自分のためになると思いますか。 「思う」 74.7%→77.7% 「だいたい思う」 以上 95.1%→96.5% ・飲酒・喫煙・薬物のことを知ることは自分のためになりましたか。 「なった」 71.0%→69.0% 「だいたいなった」 以上 95.8%→97.4% 		

<p>・運動することは自分のためになると思いますか。</p> <p>「思う」 71.9%→68.6% 「だいたい思う」 以上 96.3%→96.5%</p> <p>・運動することは自分のためになりましたか。</p> <p>「なった」 52.3%→43.9% 「だいたいなった」 以上 77.9%→74.2%</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲酒，喫煙，薬物の取組によりそれらの危険性を指導できたと思われる。 ・規則正しい生活の実現度は低い。家庭が関係することが実現困難な理由である。 ・運動については，実現度が下がっている。3年生の部活引退により，十分運動する機会が減ったため，数値が減った可能性がある。 	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活が大事であることを理解できるよう，生徒・保護者に訴えていく必要がある。今年度生徒には食育の方から理解を迫ることができた。継続して次年度も行いたい。 ・次年度も飲酒，喫煙，薬物については，講演等で指導を行っていきたい。 	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動と学力には相関関係がある。 ・地域の体育行事に参加する生徒が年々少なくなっているのので，参加してもらえるとありがたい。 	
	評価日 3月6日	評価者 学校運営協議会

（４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>「うずまさの人づくり ～次代の太秦地域を支え，作り上げていく人材の育成～」</p> <p>小中一貫した取組の中で，地域を愛し，学ぶ意欲に溢れ，未来を切り拓ける心豊かな児童・生徒を育成する</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中校長会の，さらなる推進。 ・小中主任会の，さらなる推進。 ・小中合同研修会の，さらなる充実。 ・相互の研究授業や校内研修，行事等への積極的参加。 ・小中一貫で，よりよい道德教育についての研究の推進。 ・小中一貫で，よりよい学校評価の在り方についての研究。 ・生徒会と児童会のさらなる連携。 ・小学生と中学生が，共に学びともに活動する場のさらなる創造。

(取組結果を検証する) 各種指標 アンケート「小学校と中学校で連携または一貫して生徒を育てられていると思いますか」(教職員)		
各種指標結果 (1回目) 十分とは言えないまでも小中連携していると感じている教職員が多くなってきている。		
自己評価	分析 (成果と課題) ・係会が年度途中だったため、動き始めが遅かった。今年度は昨年度より早く行った。 ・打ち合わせの時間がなかなか取れない。早い段階で計画をして、確実に実行していく必要がある。 ・小中の係の先生で顔を合わす機会が少ないので、話が進みにくいとのことで、小中夏季研修後に係を中心に親睦会を持った。 ・親睦会を持ったが、時期の問題で係が欠席となった。予定をしっかりと立て、目的が果たせるようにしなければならない。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・旧2学期に行っていた係会を6月に行った。 ・昨年に引き続き、小中の親睦会をおこなった。それにより打ち合わせがしやすくなった係りもあった。 ・小中生が共に学ぶ活動の場を小中の行事予定の中で確実に実践できるように計画する。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・ゆくゆくは地域で生活する子供たちにしっかりと教育していったほしい。	
	評価日 10月26日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果 (2回目) ・小中連携しているかを「十分できている」との回答は5%から8%と微増、「だいたい出来ている」を合わせると、67%から82%と増加している。		
自己評価	分析 (成果と課題) ・小学校との顔合わせの係会を早めに行ったことが、取組が進んだ大きな要因になったと思われる。また親睦会など顔を合わせる機会を作ったことも評価できる。ただ、3校の中で参加者が少ない学校があった。 ・小中連携を深めるため、おおまかな計画を今年度中に立て、打ち合わせる必要がある。 ・職員会議や研修会など教職員が集まる場で、取組や現状の説明を行ったことが増加の一因になっていると思われる。小中連携を進めるうえで教職員の周知はたいへん大事であると考えられる。	

	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月に顔合わせを目的にした第1回を行ったが、それでも時期的に遅いと考え、来年度は4月中に実施したい。 ・ 親睦会については、時期の検討、周知等を確実に行之、目的が達成出来るようにする。 ・ 今年度中に次年度の小中の連携の計画をおおまかではあるが立てている。次年度はその計画をより具体的に係で検討していく。 ・ 次年度も取組や現状を教職員全体で共有していく。 	
学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・ しっかりと計画されている。できる支援協力はなんでも行うので、相談してほしい。 	
	評価日 3月6日	評価者 学校運営協議会